

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

(仮称)KIX01Aデータセンター新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.4)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.5
Q1 室内環境					0.31			3.4
1	音環境			3.0	0.15		-	3.0
	1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40		-	
	1.2 遮音			3.0	0.40		-	
	1 開口部遮音性能			3.0	0.60		-	
	2 界壁遮音性能			3.0	0.40		-	
	3 界床遮音性能(軽衝撃源)				-		-	
	4 界床遮音性能(重衝撃源)				-		-	
	1.3 吸音			3.0	0.20		-	
2	温熱環境			3.0	0.35		-	3.0
	2.1 室温制御			3.0	0.50		-	
	1 室温			3.0	0.38		-	
	2 外皮性能	記入例:エアフローウィンドウの採用		3.0	0.25		-	
	3 ゾーン別制御性			3.0	0.38		-	
	2.2 湿度制御			3.0	0.20		-	
	2.3 空調方式			3.0	0.30		-	
3	光・視環境			3.3	0.25		-	3.3
	3.1 昼光利用			3.0	0.30		-	
	1 昼光率			3.0	0.60		-	
	2 方位別開口				-		-	
	3 昼光利用設備			3.0	0.40		-	
	3.2 グレア対策			4.0	0.30		-	
	1 昼光制御	ブラインドに加えて庇を用いてグレアを抑制している。		4.0	1.00		-	
	3.3 照度			3.0	0.15		-	
	3.4 照明制御			3.0	0.25		-	
4	空気質環境			4.3	0.25		-	4.3
	4.1 発生源対策			5.0	0.50		-	
	1 化学汚染物質	各材料については、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて		5.0	1.00		-	
	4.2 換気			3.0	0.30		-	
	1 換気量			3.0	0.33		-	
	2 自然換気性能			3.0	0.33		-	
	3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33		-	
	4.3 運用管理			4.5	0.20		-	
	1 CO ₂ の監視	手動による測定器を導入し、計測を可能とした。		4.0	0.50		-	
	2 喫煙の制御	全館禁煙とし、禁煙を示す表示を各出入口付近に設けた。		5.0	0.50		-	
Q2 ガンビネス性能					0.30			3.5
1	機能性			3.2	0.40		-	3.2
	1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40		-	
	1 広さ・収納性	1人あたりの執務スペースを12㎡以上確保している。		5.0	0.33		-	
	2 高度情報通信設備対応			1.0	0.33		-	
	3 バリアフリー計画			3.0	0.33		-	
	1.2 心理性・快適性			3.3	0.30		-	
	1 広さ感・景観			1.0	0.33		-	
	2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペースを執務スペースの1%以上確保している。		4.0	0.33		-	
	3 内装計画	休憩スペースの什器に京都府産木材を使用した。また、照明計画は		5.0	0.33		-	
	1.3 維持管理			3.5	0.30		-	
	1 維持管理に配慮した設計	内装仕上げにおいて防汚性の高いEP塗装を採用し、外壁面には耐		4.0	0.50		-	
	2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50		-	
2	耐用性・信頼性			3.4	0.30		-	3.4
	2.1 耐震・免震・制震・制振			3.4	0.50		-	
	1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80		-	
	2 免震・制震・制振性能	免震装置を導入し、建物全体で地震・強風に対する保護が図られて		5.0	0.20		-	
	2.2 部品・部材の耐用年数			3.2	0.30		-	
	1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20		-	
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.20		-	
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10		-	
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔	該当箇所のダクトはすべてガルバリウム若しくはステンレスダクトを		5.0	0.10		-	
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.20		-	
	6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20		-	
	2.4 信頼性			3.8	0.20		-	
	1 空調・換気設備	熱源及び配管は冗長性を回り、地震時の部分的被害が全体機能の		5.0	0.20		-	
	2 給排水・衛生設備			3.0	0.20		-	
	3 電気設備	各電源設備は冗長性が図られており、地下空間への設置を避けて		5.0	0.20		-	
	4 機械・配管支持方法			3.0	0.20		-	
	5 通信・情報設備			3.0	0.20		-	

3	対応性・更新性		3.9	0.30		-	3.9
3.1	空間のゆとり		3.4	0.30		-	
1	1 階高のゆとり	全ての階で階高3.9m以上を確保している。	5.0	0.60		-	
2	2 空間の形状・自由さ	—	1.0	0.40		-	
3.2	3.2 荷重のゆとり	床荷重は7800N/㎡で計画している。	5.0	0.30		-	
3.3	3.3 設備の更新性		3.6	0.40		-	
1	1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20		-	
2	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20		-	
3	3 電気配線の更新性	—	3.0	0.10		-	
4	4 通信配線の更新性	—	3.0	0.10		-	
5	5 設備機器の更新性	各機器の更新用のルートが計画されており、建物機能も維持されて	5.0	0.20		-	
6	6 バックアップスペースの確保	リニューアル用のエンジン室を確保している。	4.0	0.20		-	
Q3	Q3 室外環境(敷地内)		3.9	0.39		-	3.7
1	1 生物環境の保全と創出	丘陵の自然と連続する、地域に貢献する緑地計画とした。	4.0	0.30		-	4.0
2	2 まちなみ・景観への配慮	植栽により、良好な景観を形成している。	4.0	0.40		-	4.0
3	3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30		-	3.0
3.1	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50		-	
3.2	3.2 敷地内温暖環境の向上	—	3.0	0.50		-	
LR	LR 建築物の環境負荷低減性						3.2
LR1	LR1 エネルギー		3.8	0.40		-	3.1
1	1 建物外皮の熱負荷抑制	BPIM=0.56	5.0	0.20		-	5.0
2	2 自然エネルギー利用	—	3.0	0.10		-	3.0
3	3 設備システムの高効率化		2.8	0.50		-	2.8
	集合住宅以外への評価		2.8	1.00		-	
	集合住宅の評価					-	
4	4 効率的運用		2.0	0.20		-	2.0
	集合住宅以外への評価		2.0	1.00		-	
4.1	4.1 モニタリング	—	3.0	0.50		-	
4.2	4.2 運用管理体制	—	1.0	0.50		-	
	集合住宅の評価					-	
4.1	4.1 モニタリング	—				-	
4.2	4.2 運用管理体制	—				-	
LR2	LR2 資源・マテリアル		3.8	0.30		-	3.3
1	1 水資源保護		3.8	0.20		-	3.8
1.1	1.1 節水	屋内の水使用量削減に対し買収可能な製品を選定した。	4.0	0.40		-	
1.2	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60		-	
1	1 雨水利用システム導入の有無	建物躯体に雨水貯留槽を設け、トイレの排水として再利用。	4.0	0.70		-	
2	2 雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30		-	
2	2 非再生性資源の使用量削減		3.1	0.60		-	3.1
2.1	2.1 材料使用量の削減	—	3.0	0.10		-	
2.2	2.2 既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20		-	
2.3	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20		-	
2.4	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	エコマーク認定品を2種類選定している。	4.0	0.20		-	
2.5	2.5 持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10		-	
2.6	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	—	3.0	0.20		-	
3	3 汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20		-	3.7
3.1	3.1 有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30		-	
3.2	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70		-	
1	1 消火剤	N2ガス消火を採用している。	4.0	0.33		-	
2	2 発泡剤(断熱材等)	ウレタン系発泡不燃材料を採用している。	5.0	0.33		-	
3	3 冷媒	—	3.0	0.33		-	
LR3	LR3 敷地外環境		3.7	0.30		-	3.2
1	1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率80%	3.7	0.33		-	3.7
2	2 地域環境への配慮		3.0	0.33		-	3.0
2.1	2.1 大気汚染防止	—	3.0	0.25		-	
2.2	2.2 温暖環境悪化の改善	—	3.0	0.50		-	
2.3	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25		-	
1	1 雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25		-	
2	2 汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25		-	
3	3 交通負荷抑制	敷地南側に自転車駐車場及び顧客から要求された駐車台数を確保	5.0	0.25		-	
4	4 廃棄物処理負荷抑制	—	1.0	0.25		-	
3	3 周辺環境への配慮		3.0	0.33		-	3.0
3.1	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1	1 騒音	—	3.0	0.33		-	
2	2 振動	—	3.0	0.33		-	
3	3 悪臭	—	3.0	0.33		-	
3.2	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
1	1 風害の抑制	—	3.0	0.70		-	
2	2 砂塵の抑制	—				-	
3	3 日照障害の抑制	—	3.0	0.30		-	
3.3	3.3 光害の抑制		3.0	0.20		-	
1	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	3.0	0.70		-	
2	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30		-	